

桜蔭俳話会 五月句会(第三八三回) 選句結果

令和二年五月二十五日(メールによる句会)

2点	断捨離を済ませぬままに更衣	潤子	2点	屋上へ伸びる管柱夏の風	明美
3点①	第一波ようやく下火梅は実	明美		また増えたすてられん服更衣	和幸
2点	十葉や絵ごころ動く白き花	ヤエ子		菖蒲湯に浸かつて伸ばす皺と滲み	眞壽
	コロナ禍に身辺整理夏の朝	眞壽	1点	紙飛行機を窓から飛ばす春夕焼	直子
2点②	雲雀野の真ん真ん中の忘我かな	才美	2点	夏の朝鴉と対話あほな爺	ヤエ子
	柔らかき猫抱き寄せる更衣	和幸		青信号まであと三日盛アマポーラ	秀夫
	女の子駆け行く団地いぬふぐり	直子	2点	甘酒汲む自粛生活最終日	明美
1点	老ゆる今捨てる勇氣よ更衣	友子	2点	夏草や塩飴含みつつ歩く	友子
1点	カーテンをまだ閉めないでくれ遅日	秀夫	2点	割れ甕接ぐ夫の背中へ竹落葉	ヤエ子
	いつまでのステイホームや更衣	守		あと少しコロナけちらせ更衣	和幸
2点	願い食む胴体太し鯉幟	眞壽	1点	外は雨居住まひ正し新茶淹る	潤子
1点①	風薫る島に孔雀の放ち飼ひ	才美		更衣腕の黒子の黒々し	秀夫
	更衣見てるだけでももうお昼	和幸	1点	更衣心で着替へ身は変へず	眞壽
1点	鯉幟コロナ過ぎゆくまで蟄居	直子	2点	梅雨の蝶そよぎて灯す大伽藍	才美
1点	解凍の柏餅なり籠り居る	友子	2点	鬼百合の孤独の世界白昼夢	守
2点	猫の位置きのうと変わる五月かな	秀夫		サンドイッチ胡蝶は蜜の味ならむ	直子
2点①	緑蔭や消毒臭のバスの来し	守		床屋いき頭サツパリ更衣	和幸
1点	蚊遣香マツチ擦れたと幼なき手	潤子			
2点②	剥がれゆく総理の仮面七変化	明美			
	未央柳幼な子ふたりジョギング	ヤエ子			
	ダーウィン残せし言葉七変化	明美			
1点①	自制心日々試さるる聖五月	友子			
	亡き人の骨求む愛白牡丹	眞壽			
	ホンチ戦少年の目へ夏木立	ヤエ子			
1点	前髪と額の隙にある薄暑	秀夫			
2点①	江戸絵図に橋を数へる夏はじめ	才美			
	日照雨して寄りし茶房の狂詩曲	守			
	更衣洗つて乾かす古マスク	和幸			
4点	残したき雑草のあり草むしり	潤子			
	捨子猫鳴く闇もどり灯しけり	直子			
1点①	芍薬の煌々として茶事の釜	守			
1点	母の日や笑ひ話となる苦勞	友子			
	園丁は若き美人や岩煙草	潤子			
2点	自転車組む駅前広場夏燕	才美			

「事務局から」

○令和二年度桜蔭俳話会会費の納入依頼

振込用紙を同封してあります。郵便局で振り込みをお願いします。会費は三千元(年)。

○六月メール句会の作品募集

六月もコロナ禍による会場の都合で、メール句会といえます。

作品募集の締切りは六月二十五日(木)。メール又は葉書で事務局(岩野ヤエ子)宛お送りください。兼題は「梅雨」。

○七月句会

七月二十五日(土)、午後一時から、旭区民文化センター(サンハート)で行います。